

調査月報 2019/02

目次

A.台湾経済	1. 景気 01	2. 物価 01	3. 失業率 01	
	4. 通関貿易 02	5. 鉱工業生産 02	6. 小売業売上高 02	
B.トピックス	2018年第4四半期の実質 GDP 成長率の暫定値（支出面） 03			
C.経済統計	台湾主要経済指標 04	物価指数 06	雇用概況 06	貿易統計 07
	鉱工業生産指数 10	商業売上高伸び率 10	為替相場 11	対台・対外投資統計 13

1.景気 2018年12月

a.景気総合判断点数 16点※

景気対策信号は先月より1点下落し、低迷の青い景気信号へ後退した。先行指標と同時指標と共に持続的に下落し、景気の拡大は減速と示している。当局は米中貿易摩擦による台湾系資本の回帰投資による民間投資の増加、5G通信技術の導入等による輸出の活況で景気は維持出来るが、米中貿易摩擦の解消が見通せない事等に注視する必要があると示唆。

b.景気動向指数

①景気一致指数 (当面の景気動向を示す指数)

実質通関輸出額は先月より上昇したが、製造業販売量指数変動率等の6項目は全て下落。

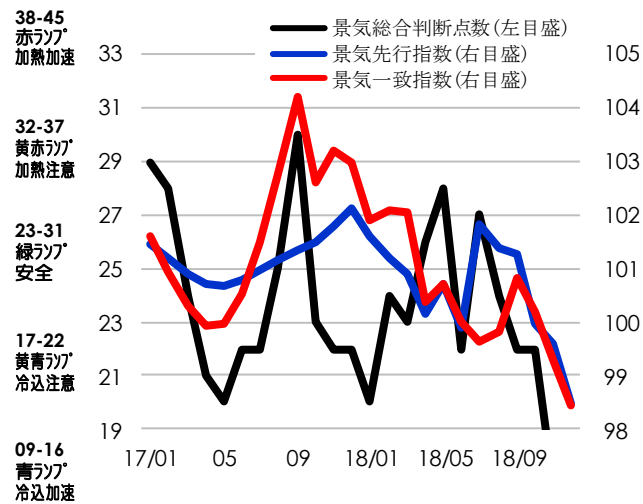
②景気先行指数 (数ヶ月先の景気動向を示す指数)

M1B 現金と預金通貨変動率は先月より上昇したが、輸出受注指数等6項目は全て下落。

※SEMI=国際半導体製造装置材料協会

※M1B=現金通貨+普通預金+個人向け普通貯蓄預金+当座預金

図 A1.景気総合判断点数と景気動向指数の推移 出所:国発会



2.物価 2018年12月

a.卸売物価 WPI: 前年同月比+0.83%

農産品、化学材料とその製品、薬品等の原材料価格が軒並みに値下げた影響で、国内製品の物価指数も下落した。為替レートが2.75%下落した事を受け、卸売物価指数はほぼ横這い成長となり、輸入物価指数は+5.4%で、輸出物価指数も+2.3%と共に上昇した。

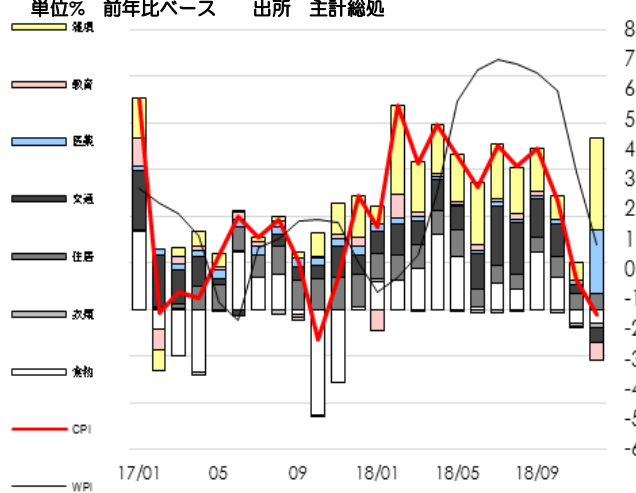
b.消費者物価 CPI: 前年同月比+0.05%

①雑貨類ではタバコ税金の引き上げで、タバコ価格が3.21%も上昇した。

②交通・通信類はMRT運賃、携帯電話料金、モバイル通信費の値下りが全体を押し下げ、1%台下落した。

③食品類では昨年は殺虫剤の影響で需要低迷し、比較値が低かった為、鶏卵と乳製品が値上がったことにより、下がり幅は縮小した。

図 A2.消費者物価指数(CPI)上昇率と構成項目の寄与度



3.失業率 2018年12月

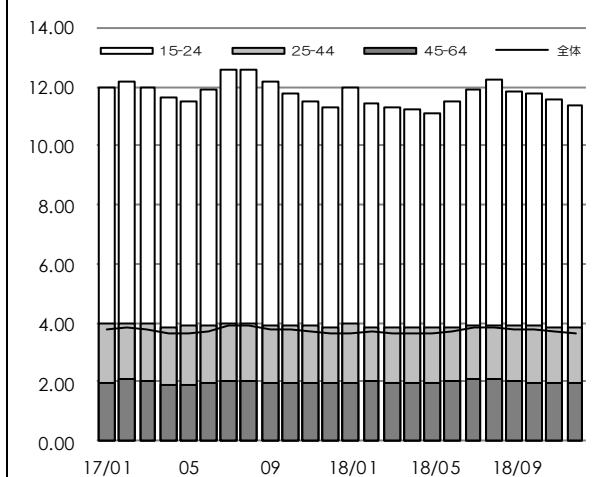
a.失業率 3.66%

先月比0.04%の下落、前年同月比で横這い。失業者数は43.6万人で前年同月より3千人増加した(+0.62%)。その内、初めての求職活動で仕事が見つからない人は2千人の減少、仕事内容への不満から離職した人は2千人が増加、臨時性等の業務終了の失業者も1千人減少し、業務縮小又は廃業で離職した人は1千人程増加した。

b.就業

就業者数は1,148.1万人で先月比6千人(+0.05%)の増加、前年同月比7.6万人増加(+0.66%)となった。業種別では、製造業は同+0.44%の307万人、第三次産業は同+0.74%の682.3万人となった。産業別就業者数の構成比を見ると、製造業26.74%、第三次産業59.43%、その他(一次産業+製造業を除く二次産業)では13.83%となった。

図 A3.失業率の推移 年齢層別 単位:% 出所:主計総処



4.通関貿易 2018年12月

a.12月輸出額 286.1億 US\$, 前年同月比-3.0%

国別では中国(含む香港 115.4億 US\$, 同-9.9%)、アセアン(46.0億 US\$, -12.6%)、等の減少で対前年割れとなった。財別では光学器材と電子部品の輸出額が大幅減少となった。

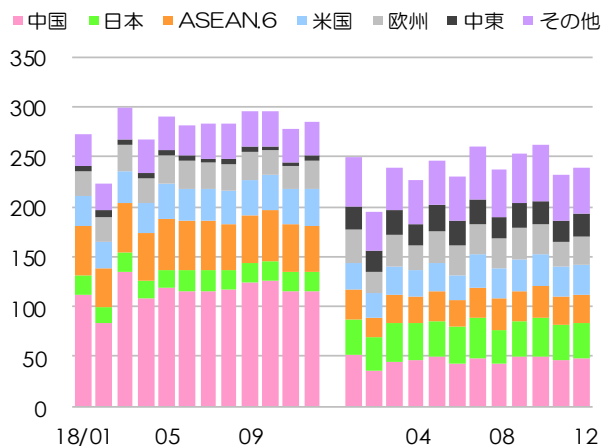
b.12月輸入額 238.9億 US\$, 同+2.2%

国別では中国(含む香港 47.2億 US\$, 同+1.2%)、米国(31.0億 US\$, +14.0%)、増加幅が最大となり、アセアンは(28.4億 US\$, +10.3%)。欧州からは(28.6億 US\$, -7.8%)減少幅が最大となった。財別では電子部品+10.3%最大の増加幅である一方、化学品は-10.7%最大の減少幅となった。

c.12月の黒字額 47.1億 US\$,同-23.2%

黒字では、中国(含む香港-16.2%)アセアン(-34.5%)は共に大幅減少し、米国は(+10.5%)で、赤字では日本(-16.7%)が減少した。

図 A4.輸出入国別実績 億 US\$ 出所: 財政部



5.鉱工業生産 2018年12月

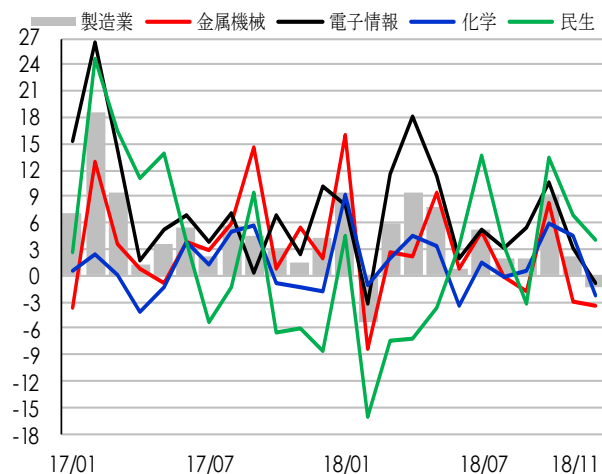
a.鉱工業生産全般

12月の指数は111.31で前年比-1.22%、9ヶ月連続のプラス成長がストップした。当局は世界経済の鈍化が原因と指摘した。その内、製造業の年増率は-1.45%減少し、鉱業・土砂採掘業は同+5.24%、電力・ガス供給業は同+1.05%、水道業は同+1.98%となる。

b.製造業4大産業別

- ①金属機械 金属業は鋼鉄需要の減少及び設備メンテナンスの為、マイナスに転じた。
- ②電子情報 消費者向け電子製品の需要不振で顧客が在庫調整したほか、サーバー業者が台湾生産率を高めた為、減少幅を抑えた。
- ③化学 石油価格の下落と米中貿易摩擦で市場での様子見によりマイナス成長。
- ④民生 昨年は設備保守で基準値が低い他、今年前倒し生産により堅調な伸びとなった。

図 A5.製造業4大産業別前年比 出所: 經濟部



6.小売業売上高 2018年12月

a.小売業全般:

無店舗小売業は年末の贈り物需要増等で+7.5%増と伸びたが、IT製品業はスマホ販売不振で-10.9%減となった。総合小売業も堅調な伸びで推移し、全体の伸びは2%台未満であるものの、過去同月の最高を更新した。

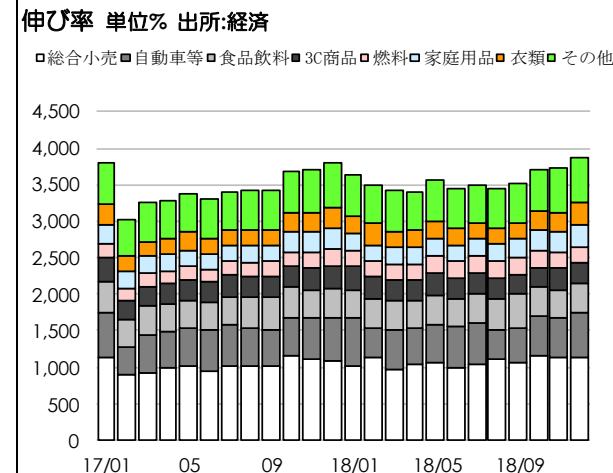
b.総合小売業

- ①百貨店 前年同月の周年慶天数より減った影響で-0.9%売上高減少となった。
- ②スーパー 業者が出店拡大及び販促活動により+10.7%での伸びとなった。
- ③コンビニ 生鮮食品や飲料の需要増で4.9%増の280億元の売上高となった。
- ④量販店 忘年会商品の需要増で4.4%伸びた。

c.外食業

クリスマス、年末年始の連休や忘年会(尾牙)等により外食需要が押し上げた。

図 A6.小売業売上高 業界別 億 NT\$ 出所: 經濟部



2018年第4四半期の実質 GDP 成長率の暫定値(支出面)

図表 1-1&1-2 参照

(A)18年Q4のGDP経済成長率は+1.78% (02/13発表の暫定値)、1月の予測値(1.76%) 0.02%を上回った。

a.内需：

内需は資本設備輸入の減少により民間固定投資のマイナス成長になったものの、民間消費及び政府消費と共にプラス成長等から経済への寄与度は3.18%をまで上った。その内、総合小売業及び無店舗販売等の小売業の売上高の増加、外食業の売上高増加及び海外渡航者数の増加、全国選挙による消費増等からの民間消費は2%台の成長となった。政府消費は年初の公務員賃金の

引上げで3%台の堅調な伸び率に上昇した。固定資本形成は資本設備輸入の減少したものの、公共固定投資は22%の高成長となった。

b.外需：

輸出では世界的な景気減速、スマホの販売不振、比較値が高い事等により0.1%の成長となった。各種製品別の輸出額からみると、通信製品、化学製品が増加したが、光学、電子部品の減少した事が際立った。輸入では資本設備輸入が再び縮小したものの、輸入原材料需要の好調で堅実な伸び率となった。又、輸入の伸び率が比較的堅調だった為、純輸出のGDP成長率の寄与度は2018Q3に続きマイナスになった。

(B)19通年は+2.27%と予測、18年11月の予測値2.41%より0.14%下方修正(1月の予測値は未公表)

所得税制度見直しによる消費の伸びで、民間消費は2%台成長の見込み。固定資本形成は半導体投資の増加等で5.00%の成長と予測。輸出では世界経済の減速等から2.25%の伸び率と見込まれ、輸入も輸出の持続的な需要に牽引され、1.89%の伸び率と予測される。

図表 1-1. 実質 GDP と各支出面の構成項目の予測成長率 単位：%

		2018					2019
		通年(p)	Q1	Q2	Q3(r)	Q4(p)	通年(f)
対前年同期成長率	GDP	2.63	3.15	3.29	2.38	1.78	2.27
	内需計	3.22	2.57	1.82	4.66	3.78	2.04
	民間消費	2.05	2.55	2.29	1.69	1.67	2.18
	政府消費	3.51	6.63	5.87	-1.47	3.55	-0.03
	固定資本形成	2.10	0.36	0.02	5.51	2.29	5.00
外需	輸出	3.66	6.42	6.33	1.35	1.29	2.25
	輸入	4.90	6.19	4.53	4.68	4.29	1.89
対成長率の寄与度	内需計	2.81	2.32	1.64	3.99	3.18	1.83
	民間消費	1.08	1.44	1.23	0.88	0.82	1.17
	政府消費	0.49	0.86	0.83	-0.21	0.52	-0.00
	固定資本形成	0.43	0.08	0.01	1.14	0.45	1.05
	外需	純輸出	-0.18	0.83	1.65	-1.61	-1.40
外需	輸出	2.38	4.01	3.96	0.89	0.85	1.50
	輸入	2.55	3.18	2.32	2.50	2.25	1.07

註：1.暫定値は2019/2/13公表の数値。
2.資本形成=固定資本形成+在庫変動。

図表 1-2. 実質 GDP 予測成長率(支出面) 単位：%

